

第 111 回 2020 年 1 月投資家アンケート調査結果

アンケート調査にご協力下さりました皆様

1月に実施致しましたアンケート調査にご回答下さり誠にありがとうございます。このたび調査結果をまとめましたのでお送りさせていただきます。ご笑覧賜れましたら幸いです。今後もアンケート調査にご協力いただけるようお願い申し上げます。

2020年 2月 28日 青山学院大学 経営学部 教授 亀坂安紀子
明海大学 経済学部 教授 新井啓

調査の概要

今回の調査では、1月6日以降344通の調査票を発送した。送付先の内訳は、銀行・生損保76通、証券会社103通、投資信託・投資顧問124通、その他41通である。1月27日までに返送された25通にもとづいて本アンケートの結果を紹介する。回答率は7.3%、平均回答日は1月15日であった。過去4回の回収状況は以下の通りである。

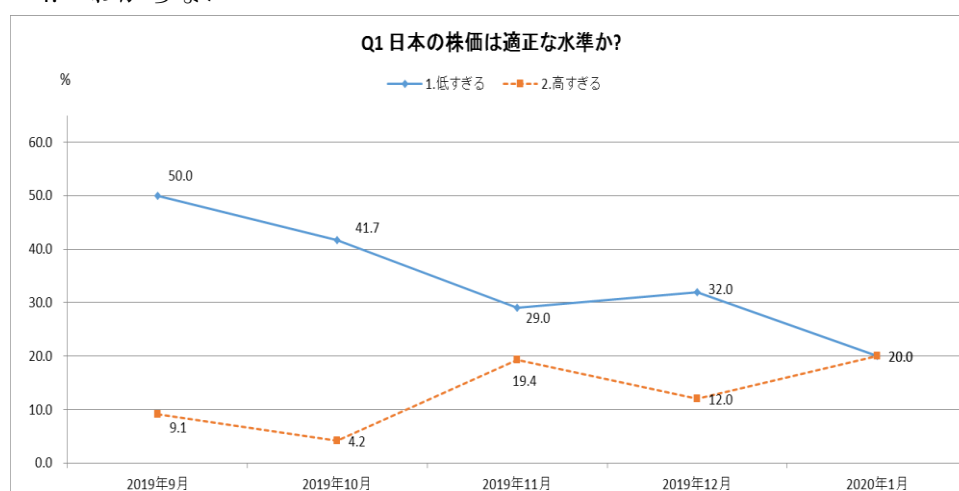
| 発送開始日 | 発送数 | 回答数 | 回答率 |
|------------|-----|-----|------|
| 2019/9/2 | 350 | 22 | 6.3% |
| 2019/10/7 | 348 | 24 | 6.9% |
| 2019/10/31 | 347 | 31 | 8.9% |
| 2019/12/2 | 345 | 25 | 7.2% |
| 2020/1/6 | 344 | 25 | 7.3% |

定期調査の質問の主要な結果

1. 日本の株価を企業のファンダメンタルズと比較してどう評価するか

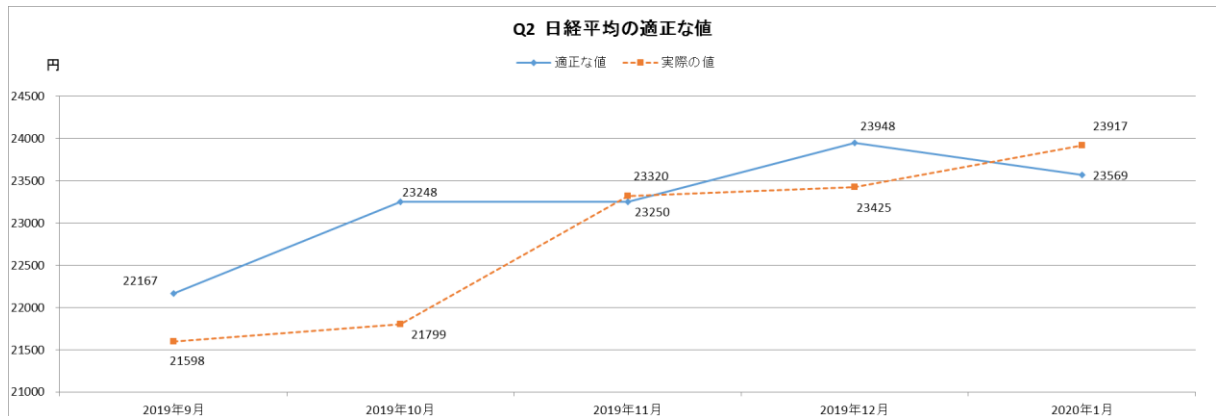
問 1. 「日本の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる
2. 高すぎる
3. ほぼ正しく評価されている
4. わからない



「3.ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 60.0%であった。

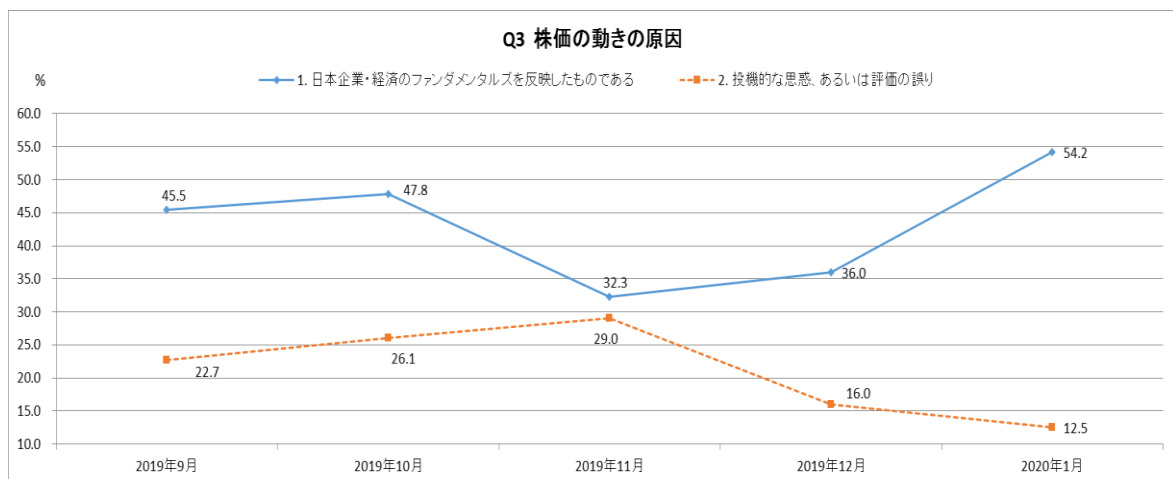
問2. 「日本の株価（日経平均）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



今回の調査においては、日経平均株価の「実際の値」が「適正な値」を上回っていた。

問3. 「過去6ヶ月間の日本の株価の趨勢的変化の要因はなんだとお考えですか。」

1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである
2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り
3. その他
4. わからない

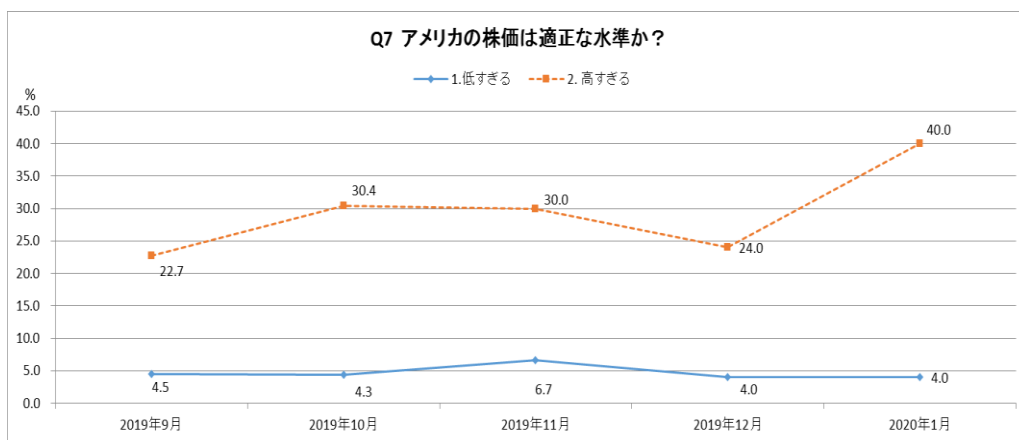


「1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである」の回答割合は50%を上回っていた。

2. ファンダメンタルズと比較してアメリカの株価をどう評価するか

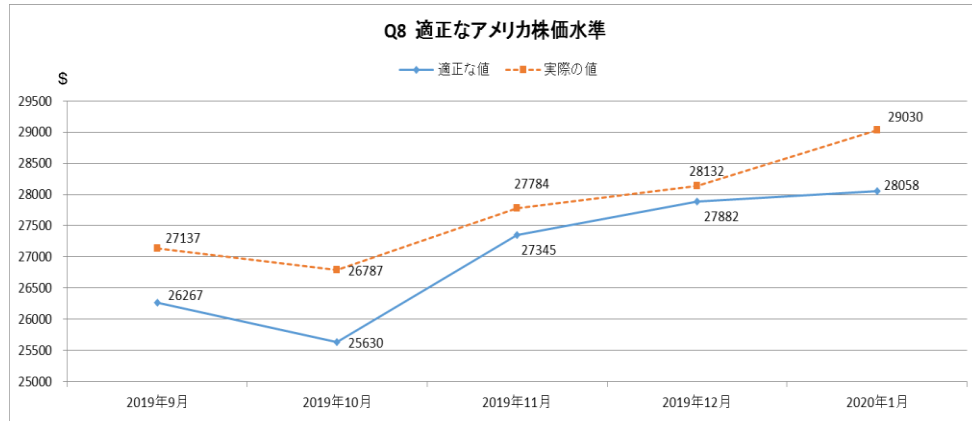
問 7. 「アメリカの株価は企業の実力(ファンダメンタルズ)あるいは合理的な投資の価値に比べて、」

1. 低すぎる
2. 高すぎる
3. ほぼ正しく評価されている
4. わからない



「3.ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 56.0%であった。

問 8. 「アメリカの株価 (NY ダウ) は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



平均回答日における NY ダウの「実際の値」は 29000 ドルを超えていた。

3. 株価の将来予想

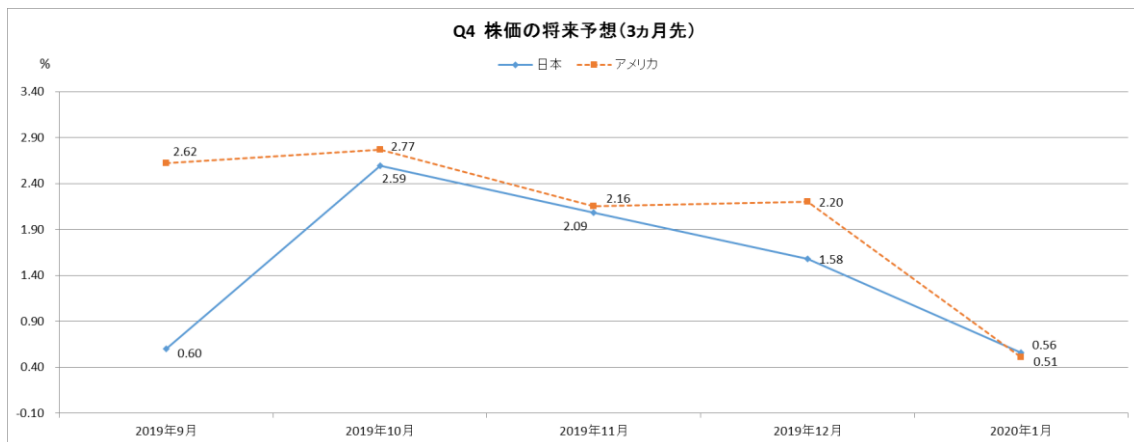
問4. 「日米の株価が、将来どう変化すると予想されているか、現在を基準として%でお答えください。(上昇を予想される場合には+ (プラス) を、下降を予想される場合は- (マイナス) を、数値の前におつけください。)」

株価の先行き予想についての今回の調査結果は以下の表のとおりである。(単位、%)

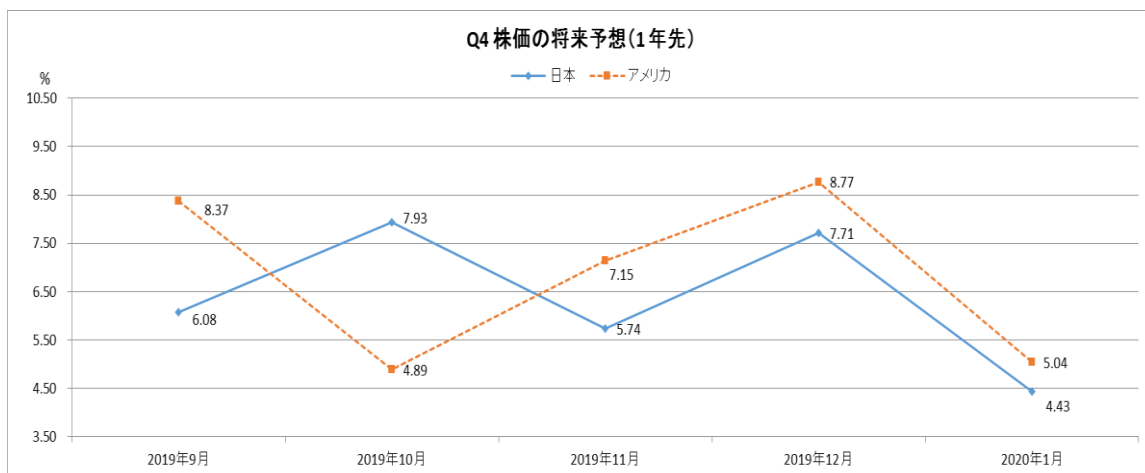
| | 日経平均株価 予想1ヶ月先 | 日経平均株価 予想3ヶ月先 | 日経平均株価 予想6ヶ月先 | 日経平均株価 予想1年先 | 日経平均株価 予想10年先 |
|------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
| 平均 | -0.39 | 0.56 | 1.80 | 4.43 | 51.50 |
| 標準偏差 | 2.76 | 3.80 | 6.10 | 12.60 | 58.25 |
| 最小値 | -10 | -10 | -15 | -20 | -30 |
| 最大値 | 5 | 10 | 15 | 50 | 200 |
| 回答数 | 22 | 22 | 22 | 23 | 20 |
| | NYダウ 予想1ヶ月先 | NYダウ 予想3ヶ月先 | NYダウ 予想6ヶ月先 | NYダウ 予想1年先 | NYダウ 予想10年先 |
| 平均 | 0.15 | 0.51 | 2.20 | 5.04 | 66.65 |
| 標準偏差 | 2.38 | 3.99 | 6.49 | 12.86 | 61.98 |
| 最小値 | -5 | -10 | -20 | -25 | -20 |
| 最大値 | 5 | 5 | 10 | 50 | 200 |
| 回答数 | 22 | 22 | 22 | 23 | 20 |

日経平均株価については、1ヵ月先、3ヶ月先、6ヶ月先、1年先の予想変化率の平均値が下方修正されていた。10年先は上方修正されていた。

NYダウについても、1ヵ月先、3ヶ月先、6ヶ月先、1年先の予想変化率の平均値は下方修正され、10年先は上方修正されていた。



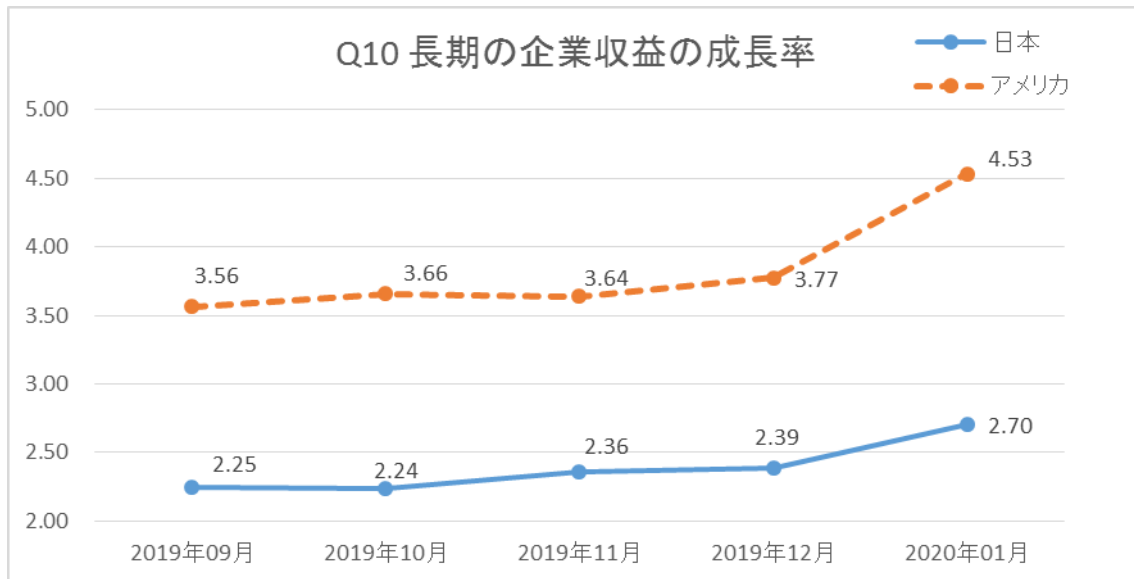
特に株価の3ヶ月先の予想変化率の平均値に注目すると、NYダウも日経平均株価も下方修正され、ほぼ同じ値になっていた。



1年後の予想変化率の平均値に注目すると、NYダウも日経平均株価も下方修正されていた。

4. 長期の企業収益予想

問 10. 「これから 10 年間の日本およびアメリカの企業収益の成長率は平均してどのくらいだとお考えですか。名目ではなく、インフレ分をひいた実質成長率でお答えください。」

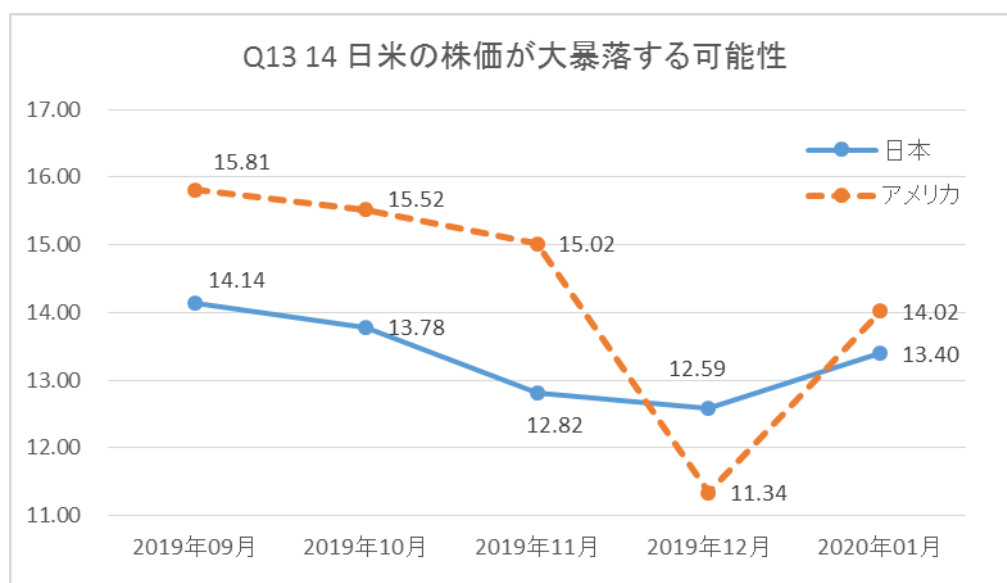


長期の企業収益の成長率の予想については、アメリカが 4%台になっていた。

5. 日米株価の安定性

問 13. 「今後 6 ヶ月以内に、日本において、アメリカの 1929 年の恐慌や 1987 年のブラックマンデーのような株価の大暴落の起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば 0%、必ず起こると思えば 100%というようにお答えください。」

問 14. 上記の問をアメリカについて質問。



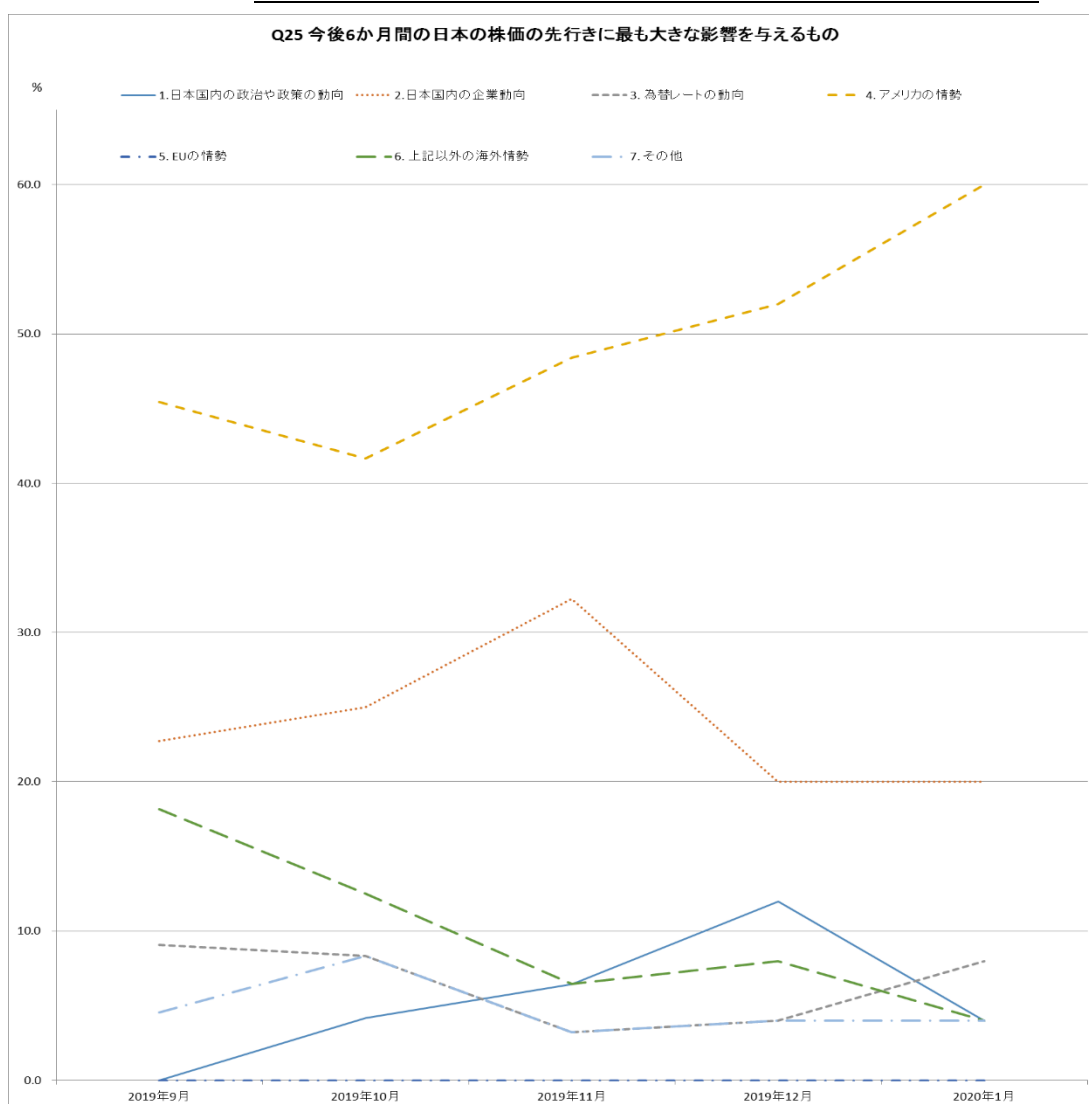
「株価が大暴落する可能性」は、前回調査と比較してアメリカが上昇した結果、今回の調査ではアメリカが日本を上回っていた。

臨時（近年追加した）調査項目の集計結果

問25. 「今後6カ月間の日本の株価の先行きに最も大きな影響を与えるのは、次のどれだ
とお考えですか。」

[番号をどれか一つ○で囲んでください]

- 1 日本国内の政治や政策の動向
- 2 日本国内の企業動向
- 3 為替レートの動向
- 4 アメリカの情勢
- 5 EUの情勢
- 6 上記以外の海外情勢 _____
- 7 その他 _____

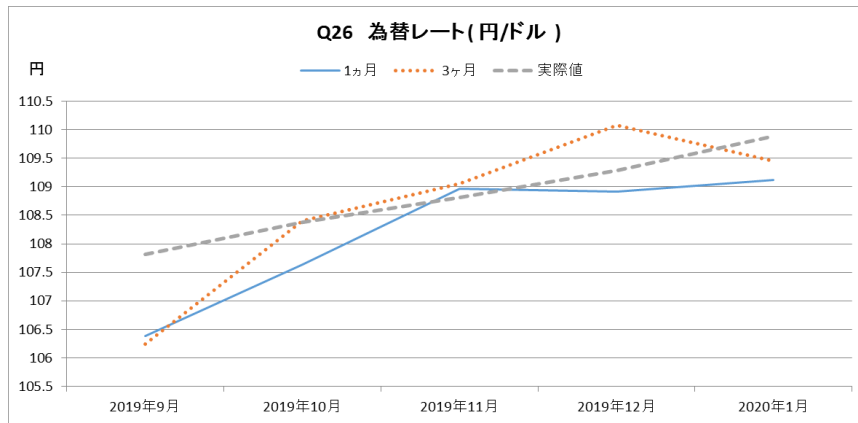


今回の調査においては「4.アメリカの情勢」の回答割合が60%に達していた。

問26. 「1ヶ月先、3ヶ月先のアメリカドル／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ドル＝ _____ 円

3ヶ月先 1ドル＝ _____ 円

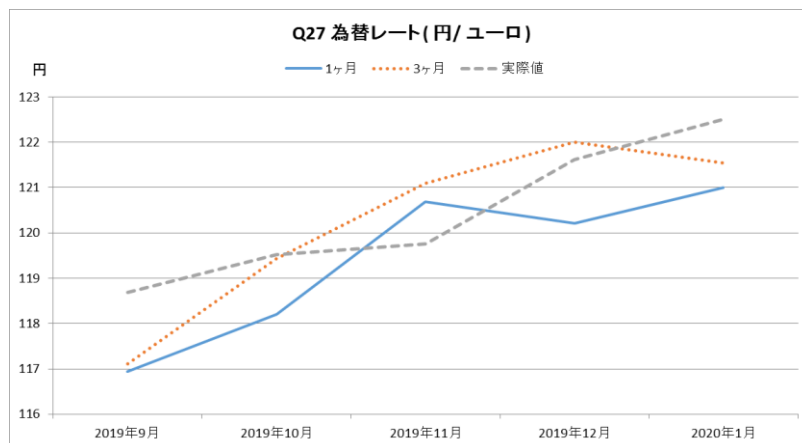


今回の調査においては、アメリカドル/日本円レートの3ヶ月先の予想値の平均値だけが円高方向に修正されていた。

問27. 「1ヶ月先、3ヶ月先の欧州ユーロ／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ユーロ＝ _____ 円

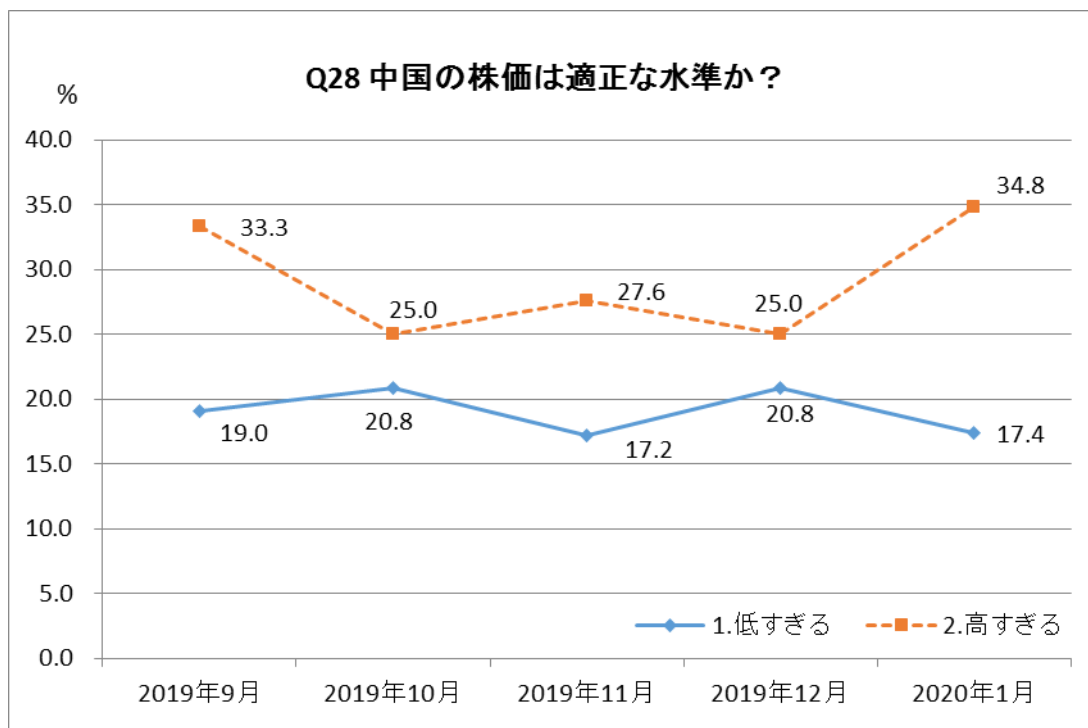
3ヶ月先 1ユーロ＝ _____ 円



ユーロ/日本円レートはアメリカドル/日本円レートと同様に、3ヶ月先の予想値の平均値だけが円高方向に修正されており、「実際の値」が最も円安の水準にあった。

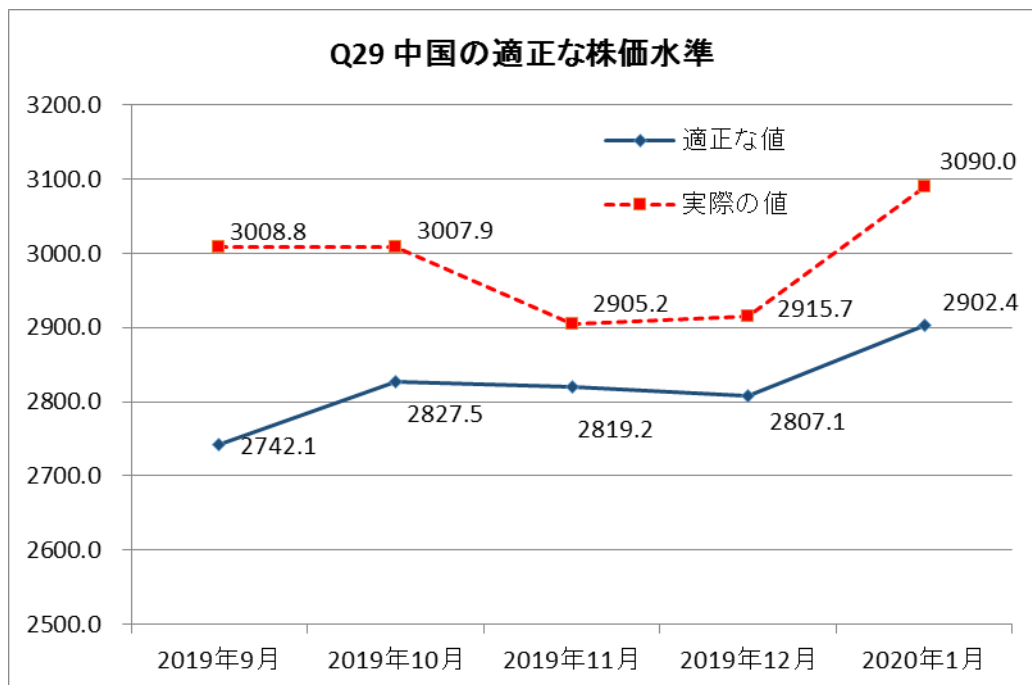
問 28. 「中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、[番号をどれか一つ○で囲んでください]

- 1 低すぎる 2 高すぎる 3 ほぼ正しく評価されている 4 わからない



中国の株価が企業の実力（ファンダメンタルズ）と比べて「2. 高すぎる」という回答の割合は30%を超えていた。

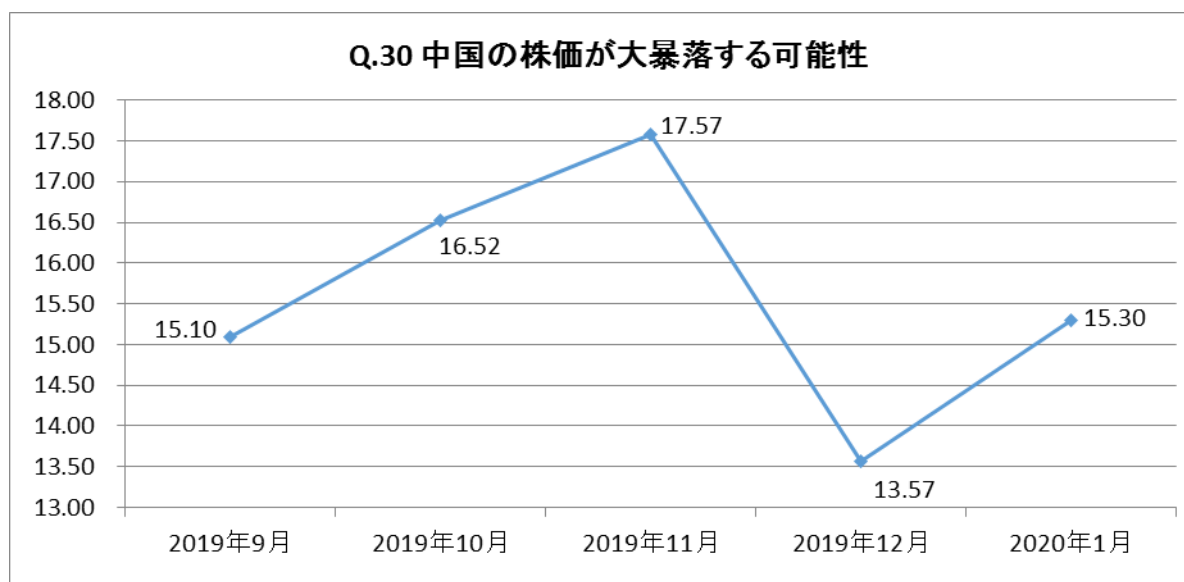
問29. 「中国の株価（上海総合指数）は企業の実力（ファンダメンタルズ）から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



平均回答日における上海総合株価指数の「実際の値」、「適正な値」はともに上方修正されていた。

なお平均回答日における「実際の値」は、BloombergのMarketsサイトより引用している。

問30. 「今後6ヶ月以内に、中国において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落が（再び）起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」



「中国の株価が大暴落する可能性」は前回調査と比較すると上昇していた。

自由コメントの紹介（掲載可能として頂いたコメントの要約）

問3の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- 米中貿易戦争に振り回された半年でしたが、ようやく落ち着いてきたと思っていたら、年初から米イラン紛争激化。株・為替・乱高下。今年も荒れ相場が続きます。

以上